

第 6 回

東日本大震災被災地調査・交流

記録誌



令和 4 年 12 月
神戸防災技術者の会 (K-TEC)

目 次

ページ数

はじめに

1

コース図

2

行程表+対応いただいた方々

1. 浪江町 帰還者との懇談及び震災遺構諸戸小学校
2. 福島第一原子力発電所 除去土壌等「中間貯蔵施設（双葉コース）」の視察
3. 大熊町 帰還に向けての復興事業視察と職員との意見交換
4. 富岡町 帰還へ向けてのまちづくり
5. 楡葉町 復興事業における新産業の導入や、帰還された方との懇談
6. 相馬市 令和4年福島県沖地震のため、相馬市は激しい状況にある
7. 南相馬市 東日本大震災直後の様子と令和元年東日本台風被害からの復興と神戸市派遣職員との懇談
8. 丸森町 令和元年東日本台風被害の復旧事業の調査と神戸市派遣職員との懇談
9. 名取市 閑上地区の復興状況と観光客誘致施設の視察
10. 岩沼市玉浦西地区 地区防災集団移転のトップランナー
「まち開きから7年後のまちと暮らしを聞く」
11. 山元町 復興事業地域の視察や地場産業振興・震災遺構中浜小学校

表紙の写真



第6回東日本被災地 調査&交流 コース図

12月9日(金)

- 浪江町
- ↓
- 中間貯蔵施設(双葉コース)
- ↓
- 大熊町

12月10日(土)

- 富岡町
- ↓
- 檜葉町
- ↓
- 相馬市

12月11日(日)

- 南相馬市
- ↓
- 丸森町

【オプション】

12月12日(月)

- 名取市関上
- ↓
- 岩沼市玉浦西
- ↓
- 山元町



はじめに

東日本大震災から、11年目である2022年までの経過を、「早と」言うか、「もう」と言うか。「まだ」と言うかは、被災された方、長期間避難生活をされる方、帰還された方、そして私たちのように被災地外の者、それぞれが抱く想いにより、その気持ちは異なるのでしょうか、一日も早く、元の生活への想いは異なることはないと考えています。

その間にコロナウィルス感染症が、2020年1月に中国の武漢市で発生が確認されて以後、全世界はコロナ禍対応に追われ、また人災であるロシアによるウクライナ攻撃は、多くの人命を失い、世界の食糧や原油不足などの危機に陥らせることなどとなり、これらの話題のため、東日本大震災被災地の記憶は風化しているのではと、嘆く今日この頃です。

東日本大震災被災地を見る時、岩手県や宮城県においては、ハードな復興事業は進みましたが、漁獲量の激減、人口減少や超高齢者の増加など課題が生じており、完全復興には至っていないと認識をしています。

一方、福島県の原因事故による長期間にわたる避難生活は、最短でも4年半、そして帰還困難地区は解除されつつありますが、まだまだ子供たちの生活や職業など家庭の事情、そして10年以上の経過の中で、家屋も住むに耐えない状況となり、帰還が進んでいるとは言えない状況にあります。

神戸防災技術者の会(略称K-TEC)においても、コロナ禍のため、他県移動の制限を受け、「被災地調査・交流」は第5回の2019年以降中断の止むなき状況にありました。

その間にあって、メールによりこれまでに訪問し、お世話になった自治体職員とは情報の交換や、情報収集には微力ではありますが、続けてきました。

他県移動の制限が緩和された2022年12月9日から、基本スケジュールは2泊3日で11日まで、オプション組は9日から3泊4日で12日まで、原因事故で帰還が未だ課題である福島県を中心にして、加えて、2019年(令和元年)の水害被災地に神戸市より支援に赴いている自治体や、さらに2022年(令和4年)3月16日の再度の地震での被災した自治体などを訪問しました。

訪問地において、原因事故被災地から長期間避難を経て、帰還困難区域の解除と共に帰還され、まちの復興に取り組んでおられる皆さんや、今だ遠方避難地などから通勤しながら、復興に取り組まれておられる自治体職員の皆さん、そして新しいまちづくりのため設置された施設の管理者の皆さんに大変お世話になりました。

また、令和になって以降発生した、地震や水害被災地の復旧の取り組まれる自治体の皆さんや、支援職員として神戸市から派遣した方々など、多くの皆さんに支えられての調査・視察の旅でした。

お世話になった皆さんに、お礼を申し上げますと共に、本被災地調査にあたり、社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会より「被災地『絆』ボランティア活動支援事業」ボランティアバス助成事業」の助成金を活用させて頂きました事に感謝申し上げます。

最後になりましたが、訪問先でお世話になった方々のお名前や所属は各報告に記載させて頂き、お礼と致します。

令和5年3月31日

参加者—石井 修・石堂 叶・柿本雅通・片瀬 範雄・久保田 裕二・倉橋 正己・中山 久憲・
西 修・橋本 彰・松下 真 (50音順)

(オプション組—石井・石堂・柿本・片瀬・倉橋・中山・橋本の7名)